

会 報 新 う ご き

編集・校正・発行 (社) 志太建築士会 〒426-0061 静岡県藤枝市田沼2丁目9-20 Tel 054-637-9804

ブログ <http://sidaken.eshizuoka.jp/> E-メールアドレス sida-ken@sky.tnc.ne.jp

新旧交代まちづくり委員会

2015年04月02日

4月1日19時より島田建築設計監理協同組合4階TOKビル会議室にて新旧交代まちづくり委員会を開きました。

ゲストとして、池野 新藤枝地区長、谷澤 施工部会長が出席してくれました。計7名の出席



雑談形式で今後の活動方針を話し合いました。

5月22日金曜日に第1回の委員会を開くことが決まりました。

森みわ さん ニュースレター

2015年04月15日

2) 充填断熱と付加断熱の境界が曖昧になる日 (代表理事 森みわ)



去る3月20日は、関係者の皆様のご協力の元、パッシブハウス・ジャパン5周年大会を大盛況にて終えることができました。この場を借りまして、ご協力いただきました全ての皆様に心よりお礼を申し上げたいと思います。欲張りな私の性格が幸いして？今年は前真之先生と宿谷昌則先生のダブル基調講演というとても貴重なイベントとなりまして、昨年4月16日のフェイスと博士の来日シンポジウムを彷彿とさせるようなメンバー構成となりました。

講演者のお二人に西方里見氏、松尾さん、私がかかわったパネルディスカッションは、いつもの事ですが当然台本などござ

いませんで、一体どんな展開になるのか全く分からないままの本番突入となりましたが、とても内容の濃いセッションだったと沢山の方からの感想を頂きました。

午前中の「日本と原発」の映画上映会は、非常に重いテーマではありましたが、日本の省エネ住宅のあり方を議論するにあたって、避けては通れない問題ですので、公式プログラムの一部として上映させて頂きました。かなり大勢の方が遠方よりこの上映会のために上京して下さっていたことは、私にとってとても嬉しい結果でありました。

翌日のオプションツアーでは、完成したばかりの西方氏の大宮パッシブハウスを午前中に見学させて頂きました。温暖地域で南から45度振れている敷地は、パッシブハウスを狙うにはかなりハードルが高く、外付けブラインド等を多用するためコストも上がりがちです。けれどもセルロースファイバー断熱を死守し、木製の窓も多用されていた素敵なお物件でした。お施主様は既に入居されていたので、今回訪問時に直接お話しすることが出来たのですが、やはりパッシブハウスを選ばれるお施主様は、ぶれない価値観をお持ちだと何時もながらに感じました。なお、大宮パッシブハウスで私が特に印象的だったのは外壁の断面構成です。昨年、能代で西方氏とパネルトークをさせて頂いた際に、今後の高性能住宅では外壁の付加断熱厚の増加により、断熱重心が徐々に外側に移行、結果的に気密は構造の外側の耐力壁のラインでも安全に取れてしまう、というお話をさせて頂きまして、実際私が昨年手がけた木造住宅物件では、防露層が存在しないセルロースファイバーの壁(付加断熱厚は150mm~180mm)でパッシブハウスに求められる気密性能を担保する事に成功しました。今回西方氏は耐力壁として面材を使用せずに筋交いのみで必要な耐力を確保され、付加断熱も充填断熱も一発ブローイングというかなり合理化された施工をされており、気密層はなんと分厚い断熱厚の一番外側にありました！セルロースファイバーならではの離れ業ですね。午後は私が設計した軽井沢パッシブハウスの見学、既に3年住まわ

れているお施主様の言葉がとても説得力があったとこちらも大好評でした！

各地でじわじわと増えていくパッシブハウスですが、早くオーナーズクラブを立ち上げたいと思います。きっと私たち実務者とは異なる情報発信をしてくださるのではないのでしょうか！？

さて、明日から第15回国際パッシブハウス・カンファレンス出席のためにドイツに飛んで参ります。今回もドイツ最新事情の中から日本のプロジェクトのヒントを見つけ出すこと、そしてアジア各国のリーダー達とネットワーキングすること、そんなところが私の主な目的です。



3) 高断熱高気密だけでは工務店は生き残れないのにそこばかりに注力している実態 (理事 松尾和也)



最近工務店さんが実際に設計した事例をパッシブデザインの観点から採点する機会がありました。その際感じたことは断熱性や気密性はそこそこのレベルに達しているのにパッシブデザインに関してはほとんどできていないという実態でした。

あまりにもその差が強烈だったので、最新号の日経ホームビルダーも新建ハウジングの両方に違った切り口でそのことを書きました。詳しくはぜひそちらを御覧ください。

高断熱高気密&省エネを極めて売れに売れている会社があります。それは一条工務店です。全国各地に講演に行きますがどの地域でも確実に右肩あがりなのはここだけです。積水ハウスやダイワハウスの売上が上がっているように見えるのは海外部門やビル部門の儲けが上がっているだけで戸建部門は上がっていません。

一条工務店は高断熱高気密&省エネではあります。しかしながら、パッシブデザインなどはなから無視している設計手法です。ほとんど規格型の住宅を営業マンによる物量作戦で売っていくやり方なので、土地や隣家も考えた細やかなパッシブデザインなどやられていないわけです。しかしその分、私でも驚くほどの断熱性をかなりローコストで実現しています。ご存知の方も多いと思いますが、ほとんどの建材をフィリピンで製造し、現場の職人も大半がフィリピン人という徹底ぶりだからこそできる芸当です。大手メーカーはおろか、工務店には絶対に真似ができないやりかたです。

ということは高断熱高気密だけで勝負し、パッシブデザインを取り入れないということは一条工務店とまともに勝負する

ことにほかならないわけです。まっとうな経営者であればこれがどれほど愚かな負け戦になるか一瞬で理解できると思います。そもそも、20年近く前から徐々に自然素材系の工務店が増えてきました。

もちろん本当に自然素材が好きで参入してきた工務店さんもたくさんありますが、それ以上に「大量生産できない自然素材には大手が入ってこないから」という戦略的理由で自然素材に入ってきた工務店の方がはるかに多いと思っています。動機がピュアであれ不順であれ、いずれにせよパッシブデザインを取り入れないということはこの事例と同様、工務店にとっては非常に不利であるということを再度心に留めておいていただければと思います。

まちづくりセンターよりお知らせ

2015年04月26日

国土交通省より、平成27年度長期優良住宅化リフォーム推進事業「提案型」の公募開始の案内が届きましたので、お知らせいたします。

公募開始 平成27年4月24日(金)
提案締め切り 平成27年5月29日(金) 18時(必着)

なお、「評価基準型」の公募は5月中を目処に行う予定です。公募概要、応募要領等は

http://www.kenken.go.jp/chouki_r/index.html

まちづくりセンターよりお知らせ

2015年05月01日

国土交通省より、平成27年度「地域における木造住宅生産体制強化事業」のうち「地域型住宅グリーン化事業」について、補助事業の適用を受けようとするグループの募集の開始について公表されましたので、お知らせいたします。

●国土交通省ホームページ

http://www.mlit.go.jp/report/press/house04_hh_000590.html

<グループ募集の受付期間等>

第1期間:

平成27年5月1日(金)から平成27年5月25日(月)(必着)

第2期間:

平成27年5月26日(火)から平成27年6月8日(月)(必着)

<応募に関する問合せ先・募集要領の入手先・申請書の提出先>

●平成27年度地域型住宅グリーン化事業評価事務局

(一般社団法人 木を活かす建築推進協議会 内)

<http://chiiki-grn.jp/>